

## 第3学年「きらめきタイム」学習活動案

日 時 平成17年10月5日(水) 2時間目

場 所 1階 体育館

学 級 3年A・B組 男子36名 女子38名 計74名

指導者 教諭 都澤宏典 小林和子 武藤志穂

### 1 単元名「私たちの未来 ～平和へのメッセージを発信しよう～」

### 2 単元のねらい

本単元は、「平和」を題材として取り組んできた平和学習のまとめとして、平和な未来を築くために自分がどのように社会と関わっていけばよいかを考える力を身につけることをねらいとしている。学習・生活の中での「平和」に関連する問題に興味を持ち、課題解決のために主体的に学習に取り組む態度を養いたい。また、「平和」に関する理解を深め、自分なりの意見を持つことができる生徒を育成したい。

前年度までの学習を生かし、自ら設定した課題の追求学習に主体的に取り組み、まとめ方・表現の仕方を工夫し、学習成果をより広く発信していくための力を身につけることもねらいとしている。収集した情報を整理して有効に活用し、効果的な表現方法を用いて発表することができるように指導していきたい。発表会では発表を聞く視点を持ち、課題に関する建設的な意見を述べるができる態度を身につけさせたい。

### 3 単元について

#### (1) 生徒について

本校では修学旅行で広島を訪れ、その取り組みを通して、戦争の悲惨さや平和の尊さを学んできた。具体的な活動として、「ヒロシマ」についてビデオや文献資料、講話等で戦争や原爆についての知識を得たり、村内の身近な方をゲストティーチャーとしてお招きし、戦争体験を聞かせていただき、戦争が決して遠くのことではないことを学んできた。更に、学活や道徳の時間を通して、戦争を起こす要因が自分たちのなかにもあるのだということ、自分の身の周りの問題を解決することが平和に繋がるのだということを感じることができた。しかし、生徒は平和を願う気持ちを強く持っているものの、具体的に自分たちにどんなことができるのかについて、考えをまとめ、意見を交流するところまでは至っていない。

前年度までは、テーマを設定してインターネットや文献、または地域の方から取材するなどの調査活動をし、新聞等にまとめる作業をしてきた。そこで、今単元では『発信』することに重点を置き、効果的な表現方法を用いて発表ができることをねらいとしているので、表現方法を工夫してまとめさせ、説得力のある平和へのメッセージを発信させていきたい。

#### (2) 単元の構想について

これまで特別活動等の時間を通して、修学旅行(ヒロシマ)の学習を深めてきた。これらの活

動は、過去にあったことを辿り感想に残していく形式であった。そこで、この単元ではさらに視野を広げ、今まで学習してきた内容を足掛りとして自分たちで課題を見つけ、追求し、自分たちの考えを言葉にして発信するという取り組みをさせたいと考えている。

今年は戦後60年ということで、様々なメディアで特集が組まれている。そのような情

報も参考にしながら、もう一度「戦争・原爆投下・平和」について考え、「これから・未来」に向けて「平和」な社会を築いていくために「今の自分たちにできることは何か」を提言することを大きな目的として活動を進めている。活動を通して、自分達の未来のために何ができるのか真剣に考えて課題追究活動に取り組み、さらに効果的な表現方法で発表する力を身につけさせたいと考えている。

(3) 活動計画と評価規準 (総時間数 18時間)

学習の段階	時数	活動内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
課題追究	テーマ設定	1 課題発見のための学習をする。 ・グループ編成 ・活動計画の立案・テーマ設定	「平和」に関する問題に興味を持ち、話し合いに主体的に参加しようとしている。		自分の知識や考えを基に、テーマを設定することができる。	
	本調査	6 情報収集・調査をする。 ・集めた情報を基に未来へのメッセージをまとめる。	情報収集や調査、まとめに意欲的に取り組もうとしている。	情報を基に未来へのメッセージをまとめることができる。	課題解決のために必要な情報を収集・整理して有効に活用することができる。	
	まとめ	6 情報の分析・まとめをする。 ・効果的な表現方法を選択し、発表資料・原稿を作成する。	意欲的に効果的な発表方法を考え、作業に積極的に取り組もうとしている。		自分の考えを伝えるために効果的な発表方法を選択し、まとめ方を工夫することができる。	「平和」に関する理解を深めることができる。
	発表 (本時1/4)	4 学年発表会をする。	「平和」に関連する問題に興味を持ち、主体的に発表会に参加しようとしている。		発表を聞く視点を持ち、建設的な質問・意見を述べることができる。	他の発表を聞いて、自分なりの考えを持つことができる。
	評価	1 学習したことを生活のなかでいかしていく意識を高める。	学習を振り返り、「平和」について真剣に考えようとしている。	平和な未来を築くには社会とどのように関わっていけばよいか考えることができる。		「平和」について自分なりの考えを持つことができる。

#### 4 本時の活動

(1) 活動名「発表会を通して自分の考えを持とう」

(2) ねらい

- ①効果的な発表方法で自分たちの考えを発表する。
- ②他の発表から学び、自分の考えを発表する。

(3) 評価規準と支援

観 点	評価規準 「評価方法」	支援を要する生徒への手だて (支援方法)
技能・表現	発表を聞く視点を持ち、建設的な質問・意見を述べるができる。「観察法・記録法」	発表を聞く視点に従い、記録カードに記入させる。
知識・理解	他の発表を聞いて、自分なりの考えを持つことができる。「観察法・記録法」	発表に対する感想だけは記入させる。

(4) 展開

段 階	形態 時間	学習活動 (○)	指導上の留意点 (・)	評価 (◆) 支援を要する生徒への手だて (▽)
導 入	一斉  (5)	1 本時の目的と内容の確認をする。  発表会を通して自分の考えを持とう。	・本時の目的と内容の確	
展 開	一斉  (35)	2 調査・研究活動の発表をする。 ○2つのグループが発表する。 (発表各10分 メモ記入3分) ○グループごとの質疑・意見交換をする  3 本時のまとめをする。 ○ 発表・質疑・意見交換を通して、新たに分かったこと、さらに学習を深めたいことなどを中心に本時の感想をまとめる。	・調査・研究活動の発表をさせる。 ・聞く側も主体者であることを確認させる。 ・発表内容・方法や提言等について意見交換させる。  本時のまとめをさせる。	◆発表を聞く視点を持ち、建設的な質問・意見を述べることができる。(技・表) ▽発表を聞く視点に従い、記録カードに記入させる  ◆他の発表を聞いて、自分なりの考えを持つことができる。(知・理) ▽発表に対する感想だけは記入させる。
終 末	一斉  (10)	4 感想発表をする。 5 講評を聞く。 6 次時の予告を聞く。 ○今後の学習について確認する。	本時の講評をする。 全体発表会に向けての意欲付けをする。	